

文化・社会貢献活動

創業から現在まで変わることなく、「利益三分主義」の精神に基づき、
豊かな生活文化の実現に寄与する文化・社会貢献活動に取り組んでいます。

創業時から続く社会貢献の歴史

創業者・鳥井信治郎は「利益三分主義」を唱え、事業の利益を社会に還元することを信念としていました。特に、恵まれない境遇におかれた人々への慈善活動、社会福祉活動に積極的に取り組みました。社会のニーズの変化を見据えながら、現在に至るまで社会貢献活動に継続して取り組んでいます。

社会福祉法人「邦寿会」を通じた支援

1921年の無料診療院開設を機に創立された「邦寿会」は、現在、社会福祉法人として特別養護老人ホーム「高殿苑」(1974年開設)、総合福祉施設「どうみょうじ高殿苑」(2008年開設)、「旭区西部地域包括支援センター」(2011年4月に大阪市から受託)、「つぼみ保育園」(1975年開設)を運営しています。

近年では、時代のニーズに応えた訪問介護(ヘルパー)、通所介護(デイサービス)、居宅介護支援(ケアプラン)などの在宅介護サービスも提供しています。



「どうみょうじ高殿苑」



「高殿苑」と「つぼみ保育園」での交流

豊かな生活文化に貢献

サントリーグループは、人々のより豊かな生活文化への貢献を目指してきました。「サントリー美術館」「サントリーホール」をはじめとした文化施設の運営など、さまざまな芸術文化支援に力を注いでいます。

また、芸術文化の振興だけでなく、人文・社会科学の学術研究助成や、生物有機化学の研究活動の推進も行っています。こうした活動を通じて、次代を担う国際的人材の育成も目指しています。

●公益財団法人 サントリー芸術財団

サントリーの芸術分野における活動を統合し、2009年に設立しました。ユニークかつ多彩な事業を通じ、日本の音楽・美術文化のさらなる普及と発展への貢献を目指しています。

サントリー美術館

「生活の中の美」を基本理念に1961年に開館。2007年には東京ミッドタウンに移転し、「美を結ぶ。美をひらく。」を掲げて、国宝・重要文化財などの収蔵品をはじめとした展覧会を開催しています。



サントリーホール

1986年に、東京初のコンサート専用ホールとして開館。年間550を超える公演に60万人近くのお客様が来場され、世界の一流演奏家による公演とともに、オリジナル企画の主催公演も多数開催しています。



音楽事業

1969年に音楽財団として設立以来、優れた業績をあげた個人または団体を顕彰するサントリー音楽賞、佐治敬三賞、芥川作曲賞などを設け、クラシック音楽の振興や新進作曲家の育成を支援しています。



●公益財団法人 サントリー文化財団

1979年に設立。サントリー学芸賞、サントリー地域文化賞、国際的・学際的な研究助成などにより、社会・人文科学と地域文化の振興に取り組んでいます。



●公益財団法人 サントリー生命科学財団

1946年に設立した食品化学研究所を前身に、1979年にサントリー生物有機化学研究所を設立。2011年1月に改称し、公益財団法人に移行。生物有機化学を基盤とする研究活動のほか、奨励助成事業も行っています。

「サントリー1万人の第九」への協賛

1983年、大阪城ホールでのオープニング記念イベントとしてスタートした「サントリー1万人の第九」。ともに「歌う」喜びやクラシック音楽の素晴らしさを感じられる機会として、小学生からシルバー世代まで幅広い年代の方々が参加しています。サントリーグループは、師走の風物詩である本コンサートに第1回から協賛しています。

31回目を迎えた2013年も、一昨年・昨年に引き続き、東北会場と中継を結び、両会場あわせて11,000名が「歓喜の歌」を高らかに響かせました。



サントリー1万人の第九

「夢」と「感動」を伝えるスポーツ活動

企業スポーツへの参加や、スポーツ振興のための活動にも力を入れています。チーム活動では、ラグビーとバレーボールの自社チームを組織し、リーグ戦に参加しています。両チームとも競技の普及活動を重視し、オフシーズンを中心にラグビー教室・バレーボール教室を開催するなど、地域に根ざした活動を展開しています。



ラグビー部「サンゴリアス」



バレーボール部「サンバーズ」

次世代育成支援を強化

サントリーグループでは、子どもたちがスポーツ・音楽・美術・環境教育などの分野で、本物や一流に触れる機会を提供し、豊かな個性・人格形成を支援しています。

次世代の演奏家・聴衆を育成

「サントリーホール」では、子どもたちに一流音楽家による本物の生演奏を聴いて感動を経験してほしい、生活の中にクラシック音楽を取り入れてほしいという考えのもと、さまざまな次世代育成プログラムを企画・運営。アメリカのカーネギーホールと連携し、3～6歳の子どもたちが生演奏を間近で聴く「カーネギーキッズ at サントリーホール」や、日本初の子どものためのオーケストラ定期演奏会「こども定期演奏会」を開催しています。

そのほかにも、若手演奏家をウィーン・フィルメンバーが直接指導する「ウィーン・フィル首席奏者によるマスタークラス」、演奏家や音楽業界での活躍を目指す若い学生を対象にした「レインボウ21」などのプログラムを実施しています。



カーネギーキッズ2013



こども定期演奏会

美術に親しむ機会の提供

「サントリー美術館」では、次世代に向けた教育普及活動に積極的に取り組んでいます。中学生以下は入館料を無料としているほか、鑑賞支援ツール「おもしろびじゅつ帖」を無料配布しています。また、お客様と美術館をつなぐ「エデュケーション・プログラム」として、展覧会ごとに親子ワークショップ、体験型ミニレクチャーを開催しているほか、毎週土曜日にはスライドを使ったわかりやすい展示解説「フレンドリートーク」を実施。さらには、展覧会に関連する記念講演会や特別公演なども開催しています。



フレンドリートーク



おもしろびじゅつ帖
(撮影:御厨慎一郎)